



ケント・ギルバートさん

■ 国際弁護士・タレント

ケント・ギルバート 1952年、米国アイダホ州生まれ。80年、司法試験に合格し、国際法律事務所就職。同年に法律コンサルタントとして東京都内での生活を始めた。タレントとしてテレビ番組にも出演する。

日本が戦争を反省する時代は終わったのではない。むしろ戦後を考え直すことが、未来を考えることにつながる。太平洋戦争が終わり、連合国軍総司令部(GHQ)のマッカーサーが来日して占領政策が始まった。ここでGHQは戦後最大の失敗を犯してしまう。それが公職追放。有能な日本人を重要なポストから追放した。特に影響が大きかったのが教育現場。自虐思考が脈々と受け継がれた。だから日本人には大國意識がないと思う。

未来を見つめて
— 私たちがすべき事

日本は大国として対応を

史観を教えてしまうと、自尊を保持できなくなるのではないか。憲法9条は「あらゆる事態にも武力に頼らず、国際紛争を解決できる理想的な憲法だ」とも思われている。だが米国人の1人として断言する。アメリカは日本を弱い国にしようとする。占領後すぐに憲法を作った。占領後すぐ憲法を施行するには、あまりにも時間がなかった。策定した人たちは、まだ残っていることに驚いたという。私は日本が大好きだ。私だけでなく世界中が好きだ。東日本大震災の際、暴動も略奪も起きなかった。ある銀行は、通帳や印鑑を持たない被災者が現金を引き出しに来た時、10万円を出した。それくらい日本人は信頼されている。だから国際的な大國として、自分自身の防衛をしてもらいたい。今、日本に大國としての対応が期待されている。日本人に誇りをもう一度取り戻してもらいたい。自国から積極的に動くことが「国づくり」そして「まちづくり」につながるはずだ。 (9月4日、姫路市市民会館であった講演会にて) (まとも・西竹唯太郎)

名前【 】

① ケント・ギルバートさんは、日本の未来を考えると、どうすることが大切と話していますか？

② 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

Large empty box for writing answers to questions 1 and 2.

③ 上で書いた感想を友だちや家族で話し合ってみましょう。

NIEワークシート / 中学生～高校生 / 総合、学活、朝NIE